



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「^{いままち}今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。さらに鉄道が開通すると、直江津は海陸の要所として大いににぎわいました。

詳しくは



直江津の商工業を支えた銀行

まちの発展により、直江津に本店を置く銀行が創設されるようになりました。旧直江津銀行は、明治28年に「直江津積^{きじん}塵銀行」の名称で発足し、直江津の商工業を支えました。銀行は大正4年に解散しましたが、銀行の建物は海運業を営む高橋^{たかつた}達太が取得し、同9年に中央3丁目の現在地へ移^{かいそう}築しました。その後、旧直江津銀行の建物は回漕店の社屋として使用されました。現在も地域のランドマーク的存在として親しまれています。



▲ライオン像のある館（旧直江津銀行）
入口前のライオン像は、高橋達太の要請により柏崎市の石工・小川^{よしひろ}田廣が制作しました。

ライオン像のある館（旧直江津銀行）

旧直江津銀行の建物は平成31年に上越市文化財に指定され、同年4月に「ライオン像のある館」として開館しました。建物内部は移築当時のまま残されており、金庫やカウンターは直江津銀行時代のもので、家具や時計、電話ボックスなどは回漕店時代のもので。館内では直江津の商工業を支え続けた銀行の歴史に触れることができるほか、各種作品展示や演奏会などの会場としても活用されています。



ライオン像のある館



▲本館ホール
壁には北前船の時代に風待ち湊^{かぜまちみなと}として栄えた郷津湾^{ごうづ}の絵画が飾られています。



▲金庫・電話ボックス
金庫には直江津銀行の社名が入っています。回漕店時代の電話ボックスは、大正時代のアールデコ調のデザインが特徴的です。

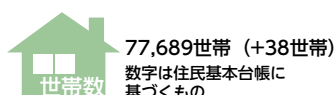
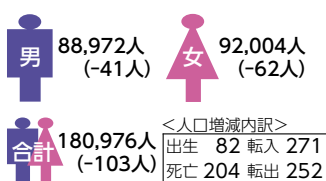
広報対話課から

(☎025-526-5111)

「広報上越11月号」は、10月23日㊥・24日㊥に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市の人口・世帯数

令和6.9.1現在。()は前月との比較



表紙のことは：デジタルでもっと便利に！

最近では、スマートフォン1台で調べ物や買い物をしたりすることが多くなり、デジタル技術の進歩に驚いています。今後もますますデジタル技術を使ったサービスが身近になっていくことでしょう。市では、市民の皆さんがもっと便利に行政サービスが受けられるよう、デジタル技術を活用した取り組みをこれからも進めていきます。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。